

インターバンクの声（2016年6月20日）

日銀の追加金融緩和の見送りが市場予想通りだったにも関わらず、木曜日には円買い・ドル売りが急速に進んだ。103円50銭台まで円買いが進んだ後、金曜日の東京の朝方104円台後半まで円が売り戻される調整が入ったが、市場では日銀の追加金融緩和は見送られたのではなく、日銀の景気刺激策が手詰まりになっているとの見方も広がって、ドル円は再び104円台前半まで下落した。この円買いは、日銀の会合結果にもよるが、より大きな背景は23日に実施する英国の欧州連合（EU）からの離脱の是非を問う国民投票で英国のEU離脱の可能性が高まりつつあったためだ。リスク回避による円買い、英ポンドやユーロ売りの圧力も強まっていたが、英国のEU残留支持を訴えていた女性下院議員が殺害されたことで事態が急変、為替や株価に大きな調整が入った。残留派、離脱派ともに運動を停止、一部には国民投票の実施延期の憶測も出ているが、事件によって残留支持派への支持が増えている模様だ。英ポンドやユーロにポジション調整による買戻しが出ているが、これでEU残留派の勝利と考えるのはまだ早いだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。